

「自分でやってみよう」とする子どもを育てる生活単元学習 ～身近な調理活動(おにぎり作り)を通して～

要約

研究の目標

日常生活の中でも「自分でやってみよう」とする主体的な子どもを育てることができるか、生活単元学習において身近な調理活動(おにぎり作り)を通して明らかにする。

研究の仮説

身近な調理活動(おにぎり作り)において、以下の3点において支援を行えば、自分一人で調理することの楽しさや達成感を味わうことができ、調理以外の活動にも「自分でやってみよう」とする子どもが育つと考える。

【教師による支援】

- ・ 教師による実演
- ・ 段階を追った支援
- ・ 必要に応じた声かけや称賛

【教具による支援】

・ 児童個人用の手順表を準備する。		
手順表を探しやすくするためのインデックス	調理の途中でめくらくて済むようにページを見開きに	手順を見つけやすくするための目印

・ 目安のテープ	・ 形カード	・ 注文メモ
必要な長さのラップをはかりとるための目安	おにぎりの形や大きさを整えるための目安	相手に応じた言葉遣いで話すためのメモ

【場の工夫】

・ スペースの確保	・ 調理器具の配置
一人で調理をやり遂げるために、児童一人に1つのテーブルを確保	作業しやすい調理器具の配置

実践の結果、次のような成果(○)と課題(●)を得た。

- 段階を追って支援を減らし、手順表や場の工夫などをしたことは、児童が一人で行える活動を増やす上で有効だった。
- 身近な調理活動を通して自分一人でできることの楽しさや達成感を味わうことは、調理以外の活動への意欲を高める上で有効だった。
- おにぎり以外の調理活動に継続して取り組む(お弁当の日に向けて)。
- 自分でやってみようとするものの対象や場所を広げる。
- 子どもが挑戦する場を広げるため、家庭への呼びかけをする。

キーワード 生活単元 調理活動 自立 社会参加 段階を追った支援

1 主題設定の理由

(1) 子どもを取り巻く環境の面から

今日、子どもを取り巻く社会は大変便利になっており、物や情報が豊富に出回っている。例えば、生活に必要なものはお金を払えば簡単に手に入れることができる。おなかですいたときは市販のおやつや軽食を食べることで空腹を満たすことができる。情報もあふれており、新聞だけでなく、テレビやインターネット、スマートフォンなど、簡単に情報が手に入ってしまうので、自ら行動しなくても、さほど困らずに生活することができる。

しかし、子どもたちの最終的な目標は自立であり、自立するためには、自ら判断し行動する力が必要である。特に、「食」は日常生活から切り離すことはできない。買ったものを食べることはたやすいが、金銭面で費用がかさみ、栄養の面でも偏りができてしまう。経済面や栄養面で考えても、買ったものだけでなく、自分で調理して空腹を満たす力を身につける必要がある。

このような社会の中においてこそ、自分でできることは「自分でやってみよう」とする主体性を持った子どもを育成することが重要であると考えられる。

(2) 子どもの実態から

本学級は、情緒障害・自閉症学級である。学級の子どもたちは、3年生3人、4年生1人、5年生1人の5人で構成されている。5年生男児は、現在長期欠席中であり、医療機関と連携しながら登校をめざしている状況のため、本研究では、3年生3人、4年生1人を対象とした。

① 学校での児童の様子から

	日常生活での意欲	身辺処理	手先の器用さ	調理への意欲	一人でできる調理	学校での調理経験
A児 (3年)	何事にも意欲的	ほぼ自立	細かな動きは苦手(手芸)	高い	洗米、野菜切り、皮むき、みそときなど	ホットケーキ お好み焼き たこ焼き
B児 (3年)	促せば取り組む	ほぼ自立	細かな作業は得意	高い	皮むき、野菜切り	サラダ 蒸しパン ぶたじる
C児 (3年)	促せば取り組む	ほぼ自立	不器用だが、細かな作業を好む	高い	皮むき 混ぜる	おでん 煎り豆 きな粉 豆腐
D児 (4年)	既習のことには意欲的	自立	不器用	高い	混ぜる 洗う	ケーキ いもご飯 など

児童の様子を見てみると、子どもたちは、大体の身の回りのことは自分でできるが、不器用が目立つ。また、促されて行動することが多く、自ら行動できる場面は少ないことも分かる。調理への意欲は高いが、一人でできる調理は少ないため、支援を受けながら共同で取り組むことが多い。

② 保護者へのアンケートから

	調理に関する意欲	家庭での調理の経験	家庭で使ったことがある調理器具	家庭での手伝い
A 児 (3 年)	できることは積極的に取り組む。	ごはんを炊く、野菜を切る、卵を焼く	炊飯器、包丁、鍋、ボウル、フライパン等	炊飯、食器洗い洗濯物取込み
B 児 (3 年)	意欲はあるが、経験は少ない。		炊飯器、包丁	お風呂洗い、食器運び、洗濯物たたみ
C 児 (3 年)	興味はあるが、経験はない。			
D 児 (4 年)	興味はあるが、経験はない。			

上記のアンケート結果を見てみると、家庭での調理経験が少なく、意欲はあるが保護者があまり調理に取り組ませていないことが分かる。そのため、調理は非日常的な活動であり、空腹を満たせるための生活に役立つ技術には至っていない。

そこで、自分一人でも作りやすく、身近な食べ物でもある「おにぎり」を取り上げた。おにぎり作りの調理活動を通して、一人でできた達成感を味わうことで、調理以外の活動にも「自分でやってみたい」という意欲をもち、日常生活の中で一般化させることにつながると考えた。

2 主題の意味

(1) 主題「自分でやってみよう」とする子どもとは

児童が自立し社会参加するために、これまでに学んだ知識や技能を生かして、自ら主体的に活動することである。

具体的には次のようなことである。

【国語の力を生かして】

- ・ レシピを読んで、おにぎり作りの手順や内容を理解する。
- ・ 注文を取る時やおにぎりを渡すときに適切な言葉遣いで話す。
- ・ 注文を聞き、必要な事柄をメモする。
- ・ 調理の工程で分からないことを先生に尋ねる。
- ・ 写真をもとにおにぎり作りをふり返り、自分の感想や次回への意気込みを書く。

【算数の力を生かして】

- ・ おにぎりの個数に合わせてボウルの中のご飯を等分する。
- ・ おにぎりの形や大きさを整える(三角形)。
- ・ 茶碗の大きさをもとに、おにぎりを包むために必要な長さのラップをはかりとる。
- ・ ご飯を円に見立てて、ご飯の中心に具を入れる。
- ・ 必要な米の量をはかり、米の量に合わせて水もはかり入れる。

(2) 副主題「身近な調理活動(おにぎり作り)」とは

「身近な調理活動」とは、身近な材料、身近な道具で、食べたいときに手軽に作れる調理活動のことである。身近な食べ物にはいろいろあるが、その中でおにぎりは、最も手軽で、間食としても食事としても活用できる食べ物である。また、ご飯と具を混ぜたり、ご飯の中に具を入れたり、味のバリエーションが広げやすいため、基本の作り方を学べば、幾通りにも応用することができる。そこで、身近な調理活動としておにぎり作りを選んだ。

以上のことから、「自分でやってみよう」と、自ら主体的に活動する子どもを育てるために、身近な調理活動を行うことは有効であると考えた。

3 研究の目標

日常生活の中でも「自分でやってみよう」とする主体的な子どもを育てることができるか、生活単元学習において身近な調理活動(おにぎり作り)を通して明らかにする。

4 研究の仮説

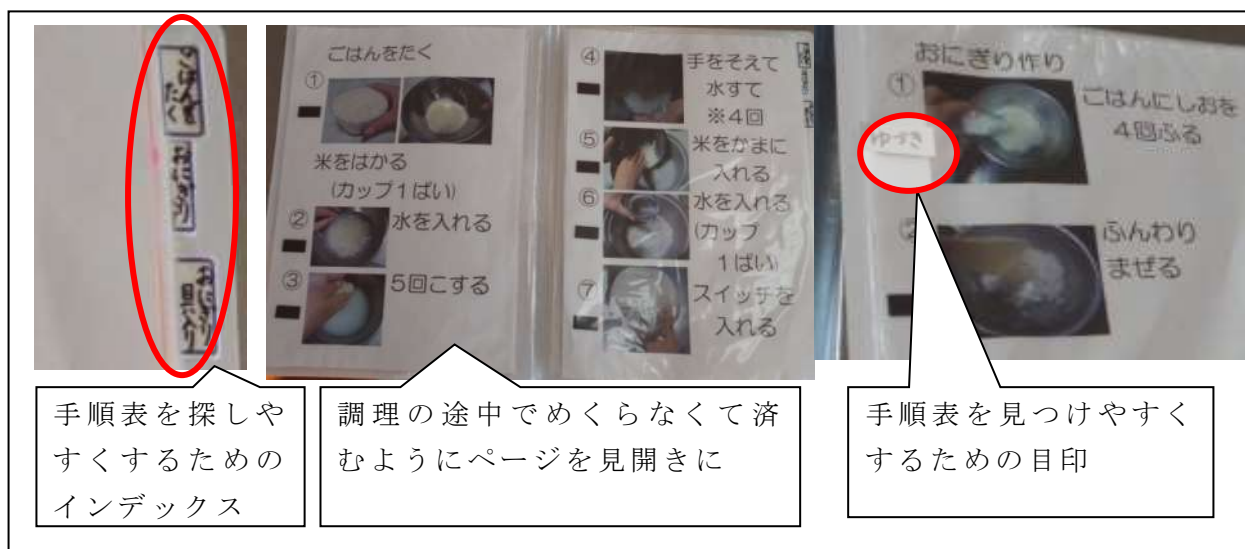
身近な調理活動(おにぎり作り)において、以下の3点において支援を行えば、自分一人で調理することの楽しさや達成感を味わうことができ、調理以外の活動にも「自分でやってみよう」とする子どもが育つと考える。

【教師による支援】

- ・ 初めのうちは、調理の工程を実際に教師が実演したり、教師が児童に手を添えて一緒に調理したりする。
- ・ 段階を追って支援を減らし、児童が一人でできる活動を増やす。
- ・ 必要に応じて声かけをしたり、児童の質問に答えたりする。
- ・ 児童が一人で上手にできた時には、ほめて意欲を高める。

【教具による支援】

- ・ 児童個人用の手順表を準備する。



【資料1 児童の手順表】

<p>・目安のテープ</p> 	<p>・形カード</p> 	<p>・注文メモ</p> 
<p>必要な長さのラップをはかりとるための目安</p>	<p>おにぎりの形や大きさを整えるための目安</p>	<p>相手に応じた言葉遣いで話すためのメモ</p>

【資料2 教具の具体例】

【場の工夫】

<p>・スペースの確保</p> 	<p>・調理器具の配置</p> 
<p>一人で調理をやり遂げるために、児童一人に1つのテーブルを確保</p>	<p>作業しやすい調理器具の配置</p>

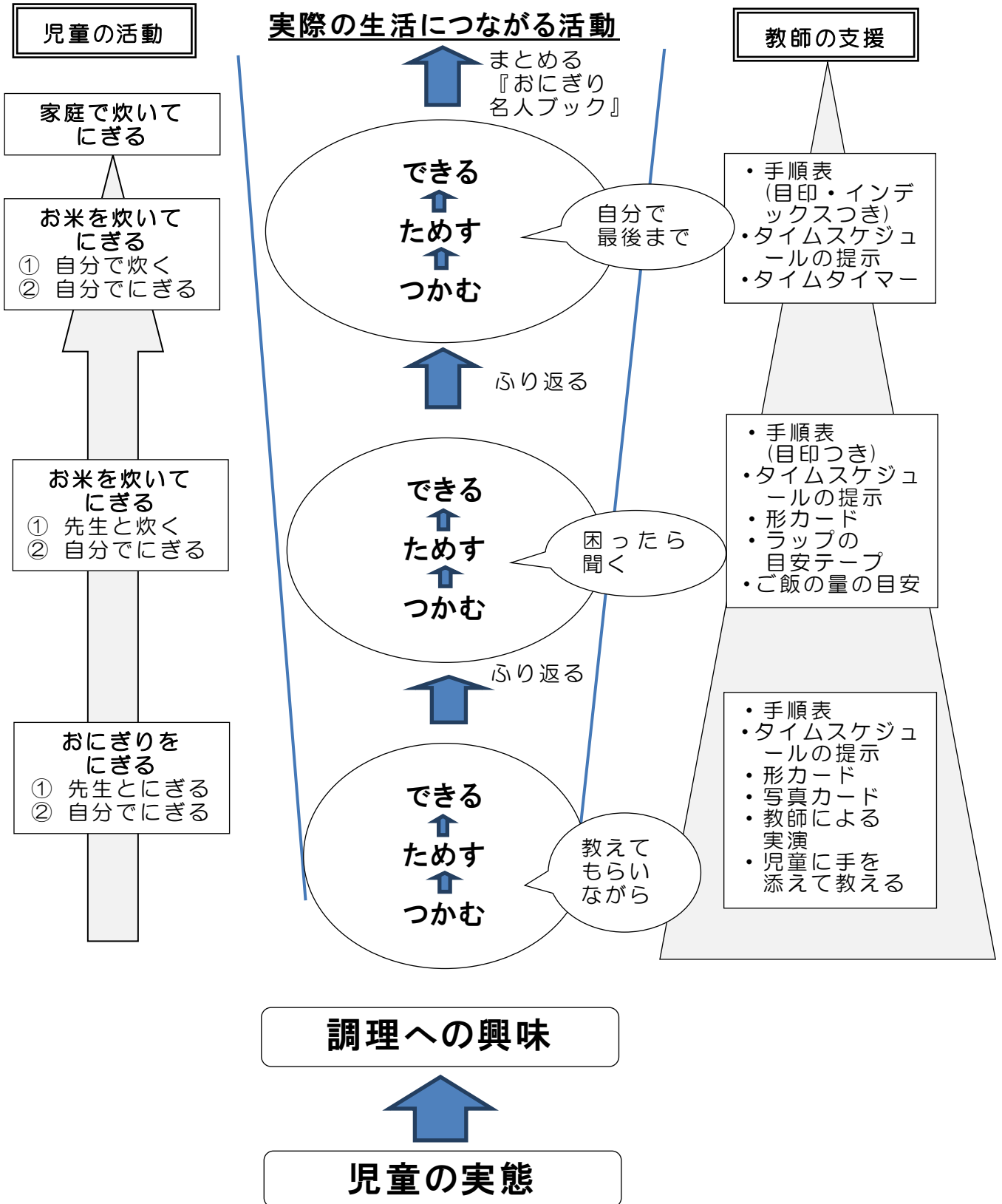
【資料3 場の工夫の具体例】

このように、自分一人の力で活動できるように、上記のような工夫をすることで、自立した生活をめざす子どもの姿が期待でき、何事にも「自分でやってみよう」とする子どもを育てることができると考えたのである。

5 研究計画の概要




月	研究内容	月	研究内容
5月	・ 研究主題の設定	10月	・ 検証授業2 ・ 分析
6月	・ 実態調査とその分析 ・ 理論研究 ・ 研究の仮説の設定	11月	・ 研究の整理と考察
7月	・ 教材研究 ・ 研究の内容・方法の検討	12月	・ 実践のまとめ
8月	・ 教材研究 ・ 研究構想作成 ・ 指導案作成 ・ 審議	1月	・ 研究のまとめ
9月	・ 検証授業1 ・ 分析	2月	・ 研究の報告

「自分でやってみよう」とする子ども







7 研究の実際

【実践1 (10月6日実施)】 ・先生に教えてもらいながら作る。

	児童の活動	教師による支援	○成果と●課題
つかむ	1 おにぎりの作り方を知る。 	・タイムスケジュールの提示 ・写真カード	○教師による実演は、写真のみで説明するよりも児童の理解を促すことができた。
ためす	2 おにぎりを作る。 ① 先生と  こうやって作るよ	・手順表 ・教師による実演 ・児童に手を添えて教える	●手順表のどこに注目するかが難しい児童がいた。 →手順表に目印をつける。
できる	【資料5 児童に手を添えて教える】 ② 自分で  形は合っているかな 【資料6 形の確認】	・形カード	●ラップの長さやご飯の量の目安がつかめない児童がいた。 →視覚的に量や長さの目安を示す。
	3 おにぎりを食べる。		

【実践2 (10月21日実施)】 ・先生と一緒にご飯を炊き、
困ったときに聞いておにぎりを作る。

	児童の活動	教師による支援	○成果と●課題
つかむ	1 先生と一緒に お米を炊く。  お米をこぼさないようにね 【資料7 洗米の様子】	・タイムスケジュールの提示 ・写真カード ・形カード	○手順表に目印をつけたことで、自分で手順表を見て活動することができ、教師への確認が減った。

<p>た め す で き る</p>	<p>2 おにぎりを作る。</p>  <p>マークを動かして、次は…</p> <p>【資料8 手順表(目印つき)】</p>  <p>赤い線までのばそう</p> <p>【資料9 ラップの目安テープ】</p> <p>3 おにぎりを食べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手順表 (目印つき) ・ラップの長さを示すテープ <ul style="list-style-type: none"> ・1回分のご飯の量の目安を伝える  <p>【資料10 1回分のご飯の量の目安】</p>	<p>○視覚的に目安を示したことで、自分で適切な量や長さをはかることができた。</p> <p>●どの手順表を見るか迷う児童がいた。 →手順表にインデックスをつける。</p> <p>●時間内に活動を終える見通しをもつことが難しかった。 →タイムタイマーを活用する。</p>
---	--	--	---

【実践3(11月4日実施)】 ・自分でご飯を炊いて、一人で作る。

	児童の活動	教師による支援	○成果と●課題
<p>つ か む</p>	<p>1 自分でご飯を炊く。</p> <p>上まで全部 2回入れるよ</p>  <p>【資料11 米の計量の様子】</p> <p>2 おにぎりを作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムスケジュールの提示 	<p>○手順表を自分で見て活動の確認をしながら作ることができた。</p>

<p>た め す</p> <p>で き る</p>	<div style="text-align: center;"> <p>【資料12 手順表 (目印・インデックスつき)】</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 見てみて 一人で できたよ </div> <div style="text-align: center;"> <p>【資料14 一人で作る様子】</p> <p>3 おにぎりを食べる。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・手順表 (目印・インデックスつき) ・タイムタイマー <div style="text-align: center;"> <p>【資料13 タイムタイマーの活用】</p> </div>	<p>○インデックスを付けたことでスムーズに手順表の必要なページを見つけることができました。</p> <p>○タイムタイマーを使うことによって、時間の見通しをもつことができました。</p>
---	--	--	--

8 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

① 日常生活での意欲

	研究前	研究後
A 児(3年)	何事にも意欲的	苦手な事にも前向きに取り組むようになった。
B 児(3年)	促せば取り組む	自ら行動する場面が見られるようになった。
C 児(3年)	促せば取り組む	困った時に質問する場面が増えた。
D 児(4年)	既習のことには意欲的	興味をもつ対象が広がってきた。

② 身辺処理や手先の器用さ

	研究前	研究後
A 児(3年)	ほぼ自立 細かな動きは苦手(手芸)	手順表を見て、ビーズなどの手芸にも取り組むようになった。ミシンが得意になった。使った物を元の場所に戻すようになった。
B 児(3年)	ほぼ自立 細かな作業は得意	準備や後片付けに見通しを持てるようになり、一人でできるようになった。
C 児(3年)	ほぼ自立 不器用だが、 細かな作業を好む	準備や後片付けに見通しを持てるようになり、進んでできるようになった。説明を読んで手順通りに作業できるようになった。
D 児(4年)	自立 不器用	手順表を見て、細かい作業も一人でやってみようとする場面が増えた。時間内に活動しようとする姿が見られるようになった。

③ 調理に関すること

	研究前	研究後
A 児(3 年)	調理への意欲は高く、調理の経験も多いため主な調理器具の使い方を知っている。	手順表の見方が分かり、見通しをもって自分で活動できるようになった。友達に教える姿も見られた。家庭でも調理する機会が増えた。
B 児(3 年)	調理への意欲は高く、経験したことがある活動は一人でできる。	一人でおにぎり作りができるようになった。手順表があれば、他の調理も一人でやろうとするようになった。
C 児(3 年)	調理への意欲は高いが、調理器具を適切に使って手順通りに活動することは難しい場面が多い。	一人でおにぎり作りができるようになり、誰かのために作りたいという意欲が高まった。調理活動を楽しむこともできた。
D 児(4 年)	調理への意欲は高いが、調理器具を適切に使って一人で手順通りに活動することは難しい場面が多い。	一人でおにぎり作りができるようになった。本を読んで作ってみたい調理のレシピを探し、家庭でも作ろうとする意欲が見られた。

このように、身近な調理活動(おにぎり作り)を通して、自分一人で調理することの楽しさや達成感を味わうことができ、調理以外の活動にも「自分でやってみよう」とする子どもの姿が見られた。

(2) 今後の課題

今回の身近な調理活動(おにぎり作り)を通して、子どもたちの調理に対する意欲が高まったので、今後はさらに、お弁当の日のおかず作りなど、おにぎり以外の調理活動にも挑戦できるように継続して取り組んでいきたい。また、「自分でやってみよう」とするものの対象や場所を広げていきたい。そのために、家庭への呼びかけを継続していく。

〈参考文献〉

- 文部科学省 『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編』
- 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 国語編』
- 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 算数編』
- 北大路書房 『初めての教育論文』 野田敏孝
- 小郡市・三井郡教育研究所 『平成 24 年度小郡市・三井郡教育研究所研究紀要』
- 小郡市・三井郡教育研究所 『平成 26 年度小郡市・三井郡教育研究所研究紀要』